

ニーズからデザインへ

製品開発への方法論応用

研究技術の実用（製品）の可能性

ニーズ発見とそれに引き続く初期段階での「アイデア」共有のための手法を解決していけば、より実用への可能性が高まります。

成熟社会において、多くの製品分野では従来の機能と価格を中心とした製品企画では、すぐにコモディティ化の波にのまれ市場における優位性を保てません。ユーザの潜在的意識を感じ取ること、それをグループ内で共有しつつソリューションを導くデザインプロセスが、ニーズに寄り添える製品への近道です。



従来技術

完成された「製品」がユーザに提供できる「質」は、明白に意識され、認識されている問題の解決だけではありません。

「製品」がユーザに提供できる「質」については、これまで所謂プロダクトデザインが提供してきました。また、ユーザの嗜好、あるいは使いやすさといった視点から、プロダクトデザインを提供してきました。また、ユーザの嗜好は従来アンケートや調査インタビュー調査、使いやすさについては実験室におけるユーザビリティ調査を中心に実施されてきました。

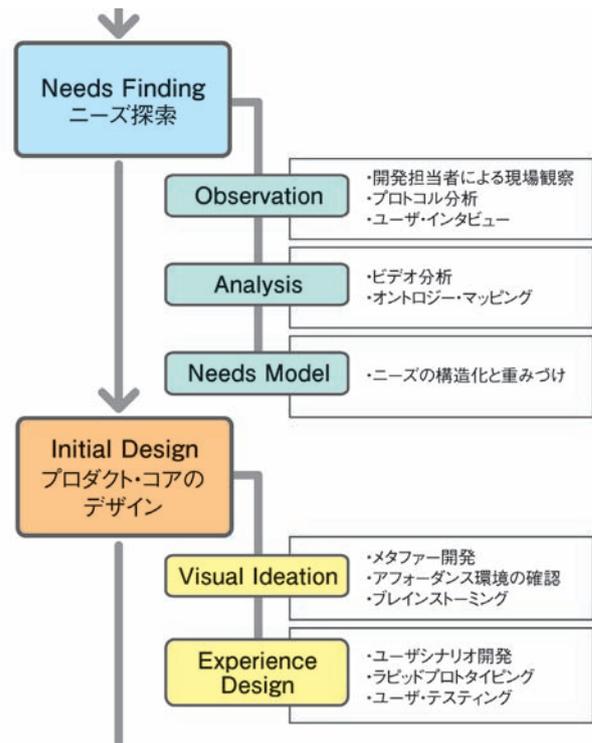
研究技術の裏付け

- ①研究技術のプロセスとして、先ず「見つけること」ニーズ探索が必要。
観察・分析・ニューモデル構築など。
- ②次に「見える化」をする。その為にはプロダクト・コアのデザインが必要。
 - ・視覚的思考によるアイデア生成
 - ・ユーザ経験の演出と組立
- ③研究技術のポテンシャル
造形工学部門、デザイン系研究室ではデザインの研究をシーズとして、経営上のデザイン戦略課題、製品開発におけるデザイン開発および宣伝・広報などのコミュニケーションデザインに関するコンサルテーションやデザイン実践の支援を行います。

研究技術

その製品がユーザの心の琴線に触れるためには、ユーザの生活環境、時間的文脈を理解することと、そして意識下に隠れている「ニーズ」を発見し、製品の「核」としてデザインすることが必要です。

色かたちがよい、使いやすい、といった価値はこれからも重要ですが、実際の生活場面によって異なるニーズと合致していなければ意味を持ちません。ユーザの生活環境・時間的文脈を理解するために、ユーザ生活そのものを観察するフィールドワークの手法が必要となります。研究室では、これをラピッドエスノグラフィーといった新たな手法を基礎に、ニーズ探索からデザイン解決のアイデア展開・具体的視覚化までの一貫した方法論を研究しています。



フローチャート

特許関係・参考資料

血液定量混合器・採血具など 5 件

製品開発への応用及び検証は、事例として

- ・(株) NEC デザイン (ニーズ探索手法)
- ・(株) 堀場製作所 (分析機器のユーザビリティ)、(医療機器のニーズ探索と製品コンセプト開発)
- ・(株) ピクセラ (ニーズ探索と製品コンセプト開発)
- ・オムロンヘルスケア(株) (健康機器のユーザ分析と情報デザイン)

研究者

京都工芸繊維大学
大学院工芸科学研究科
デザイン学部門

教授 櫛 勝彦

表象芸術、
感性情報学、
メディア情報学、
設計工学

研究テーマ

プロダクトデザインにおける創造性と方法論
ラピッドエスノグラフィーの方法論研究
ビデオエスノグラフィーを用いた老人施設デザインニーズ探索